

17.4.2 平成16年度臨時理事会議事録

日 時：平成17年4月2日（土） 9：30～12：30

会 場：国立京都国際会館5階 「Room 510」

出席者：

会 長：藤井 信吾

副会長：田中 憲一、丸尾 猛

理 事：麻生 武志、石塚 文平、石丸 忠之、伊藤 昌春、稲葉 憲之、植木 實、  
大濱 紘三、岡村 州博、落合 和徳、嘉村 敏治、木下 勝之、工藤 隆一、  
佐藤 章、鈴森 薫、武谷 雄二、野口 昌良、星 和彦、村田 雄二、  
和氣 徳夫

監 事：荒木 勤、中野 仁雄、藤本征一郎、

幹事長：吉田 幸洋

幹 事：植田 政嗣、小田 瑞恵、小原 範之、刈谷 方俊、小林 浩、古山 将康、  
澤 倫太郎、清水 幸子、杉浦 真弓、早川 智、阪埜 浩司、平川 俊夫、  
平田 修司、藤森 敬也、村上 節、矢野 哲

総会議長：清川 尚

総会副議長：足高 善彦、松岡幸一郎

専門委員会委員長：深谷 孝夫

名誉会員：加藤 順三、神保 利春

顧問弁護士：平岩 敬一

事務局：荒木 信一、桜田 佳久

配付資料一覧

規約・内規等一覧

1 平成16年度第4回理事会議事録（案）

2 平成16年度第8回常務理事会議事録（案）

3 業務担当常務理事報告並びに関連協議事項予定内容

庶務1 理事会運営内規（案）

庶務2 第57回総会関連資料

庶務3 理事、監事、第57回総会運営委員・予算決算委員候補者

庶務4 次期専門委員会委員候補者

庶務5 大谷医師等訴訟 第6回口頭弁論報告

庶務5-2 大谷医師の着床前診断問題に対する灘区医師会の見解について

庶務6 「女性の健康週間」に関する報道記事及び三越作成の配布チラシ

庶務7 生殖補助医療による出生児の予後調査に関わる記事と一般市民の反響について

庶務8-1 富士見産婦人科病院に関連する報道記事

庶務8-2 本会の対応方針について

庶務9 厚労省「診療行為に関連した調査分析モデル事業についての意見交換会」開催の通知

庶務9-2 同意見交換会での配布資料及び報告書

庶務10 周産期委員会「分娩誘発剤使用に関するガイドライン作成に関して」

庶務11 厚労省「医師の需給に関する検討会」について

庶務12 文科省「個人情報保護に関する法律」に関する通知

庶務13 日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員会議事録

庶務14 第13回国際胎児診断・治療学会に対する後援依頼

- 庶務 15 アボットジャパン(株)「βhCG 測定キットの取扱いについて」
- 庶務 16 日本臓器製薬(株)「メサルモン-F錠の供給停止について」
- 庶務 17 NPO 法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会「読影試験の評価基準及び認定更新制の見直しについてのお知らせ」
- 庶務 18 日本循環器学会「循環器病の診断・治療に関するガイドラインの取り扱いについてのお願い」
- 会計 1 文科省『「事業報告書及び収支決算書」並びに『事業計画書及び収支予算書』の作成について』の通知
- 学術 1 第 27 回日本医学会総会学術プログラムに関するアンケートのお願い
- 学術 2 第 58 回学術講演会シンポジウム座長
- 学術 3 生殖・内分泌委員会「低用量経口避妊薬(OC)の医師向け情報提供資料」の改訂依頼について
- 渉外 1 Previous FIGO Award Winners
- 渉外 2 FIGO「FIGO/ESRF Fellowship for Post-Doctoral Research」
- 渉外 3 ACOG2005「A Banquet for Korea-Japan Joint Conference」招待者に関し、情報開示を依頼する書信
- 渉外 4 SOGC からの E-mail
- 社保 1 妊娠・分娩の給付のあり方に関する要望書
- 社保 2 厚労省『医科診療報酬点数表及び関連通知等の項目総点検に関する御協力のごお願い』
- 社保 2-2 厚生労働省との協議会報告書
- 社保 3 平成 18 年度社会保険診療報酬改正に関する要望項目
- 社保 4 社会保険診療報酬検討委員会『平成 18 年 4 月診療報酬点数改定に関する産婦人科の要望』
- 専門医制度 1 読売新聞 3 月 22 日付「日本専門医認定制機構による実態調査」に関する記事
- 専門医制度 2 NPO 法人日本レーザー医学会『産婦人科レーザー専門医の経験症例及び症例数』
- 倫理 1 着床前診断の実施に関する細則
- 倫理 2 慶應義塾大学・名古屋市立大学からの着床前診断に関する審査小委員会委員
- 広報 1 地方部会別パスワード登録率(平成 17 年 2 月末現在)
- 広報 2 公開講座について
- 第 57 回総会 1 代議員からの質問・要望事項

午前 9 時 30 分、理事総数 23 名中 23 名が出席し、定数に達したので藤井会長が開会を宣言した。市民公開講座が盛況であった。合宿も盛況であった。生涯教育も参加者多数であったと報告があった。

#### I. 第 4 回理事会議事録の確認

上記議事録案が示され原案のとおり承認された。

#### 第 8 回常務理事会議事録の確認

上記議事録案が示され原案のとおり承認された。

## II. 報告事項

### I. 業務担当常務理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 庶務（落合和徳理事）

##### 〔I. 本会関係〕

##### (1) 会員の動向

後藤田克己<sup>ごとうだかつみ</sup>功労会員（大阪）が1月19日、中村隆次<sup>なかむらたかつぐ</sup>功労会員（神奈川）が3月11日に逝去された。寺島溥<sup>てらしまひろし</sup>功労会員（佐賀）が2月22日に逝去されたので、会長名の弔電を手配した。

○ (2) 理事会運営内規において罷免条項を追加することについて [資料：庶務 1]  
改定案のとおり承認された。

(3) 第57回総会次第及び代議員等への案内、総会資料等送付のスケジュールについて説明され、承認された。

[資料：庶務 2]

(4) 理事・監事候補者及び総会運営委員・予算決算委員候補者について説明され、承認された。[資料：庶務 3]

(5) 次期専門委員会委員候補者について説明され、承認された。[資料：庶務 4]

##### (6) 大谷訴訟について

3月17日に第6回口頭弁論が行われ、本会から平岩弁護士（代理人）、落合理事が被告側として出席した。また、吉田幹事長、阪埜庶務主務幹事が傍聴した。[資料：庶務 5]

平岩弁護士より、第7回に双方が立証の準備をして主張を整理する。ここまでの文章によるやり取りは終了する。それ以降は承認調べが必要なら行っていく予定である。

日本産婦人科医会は27日、大谷医師に退会勧告をすると発表した。日本医師会自浄作用活性化委員会より、神戸市灘区医師会宛に大谷医師の着床前診断問題に対する灘区医師会の見解に関する書面が提出された。[資料：庶務 5-2]

医会より、総会において大谷医師に対する退会勧告が決定し、書面を送った。返事はまだ得られていない。

##### (7) 「女性の健康週間」について [資料：庶務 6]

3月1日～7日日本橋三越で第1回三越女性の健康広場を開催した。18名の講師によるセミナーが実施され、会場は盛況であった。尚、会員からバッジ・ポスター・女性の生涯健康手帳の追加注文が相次いでいる。追加注文の場合バッジは1個500円で販売することとした。

石塚理事より、理事4名、幹事5名を含めた講師による講演が行われいずれもすばらしい内容であった。また、産婦人科医と話そうというコーナーでは毎日幹事を含む7～8名の医師による健康相談が行われ3,000人が来場する盛況だった。産婦人科医を身近に感じるという意味で成功だった。また、朝日エルの働きが大きく、三越も今後の運営にも積極的であった。

藤井会長より女性の健康週間ということだけでなく、年間を通じた運動として継続していけたらと考える。Women's Health というマークを使って企業との契約がかわせられれば、この運動の展開も行いやすい。次年度に向けて継続をお願いしたい。

(8)生殖補助医療による出生児の予後調査に関わる各社の記事並びに一般市民の反響について[資料：庶務7]

○(9)富士見産婦人科病院事件に関連し、厚生労働省は元院長に対する医師免許取り消しの行政処分を3月2日付で正式決定したとの報道について[資料：庶務8-1]

第8回常務理事会において北野千賀子会員及び佐々木京子会員が医師免許取り消し、医業停止(2年)の行政処分を受けたことを重く受け止め、本会懲戒規程に照らし、除名処分が適当と判断した。第57回総会において両会員の処分を決定する方針とし、所属地方部会長への意見聴取、本人の事情聴取を行うこととした。しかしながら3月11日に北野千賀子会員が今回の行政処分を不服として同処分の取り消し及び執行停止の仮処分を申し立てたことから、平岩顧問弁護士の意見を踏まえ、通信により会長、副会長、常務理事、監事及び議長団の意見を伺った結果、全員の同意により第57回総会での両会員の処分の議案提出を見送り、今後の裁判の推移を見た上で対応する方針とした。

[資料：庶務8-2]

以上が説明され、承認された。

藤井会長より、裁判の経過を見て判断すると発言された。

平岩弁護士より、医療審議会の決定を受けて除名処分をするという決定に対して、もし裁判でこの結論がひっくり返れば、その根拠を失うことになるので裁判の推移を見る必要がある。

## 〔Ⅱ. 官庁関係〕

### (1) 厚生労働省

①厚労省医政局総務課医療安全推進室より、基本領域10学会から出された共同声明『診療行為に関連した患者死亡の届出について～中立的専門機関の創設に向けて～』を受け、『診療行為に関連した調査分析モデル事業』の早期実施に向け、意見交換会(3月23日)を開催する旨の通知を受領した(2月18日)。  
[資料：庶務9、9-2]

本会から阪埜幹事が出席した。会議で各学会宛に1、国庫補助事業の受け皿は日本内科学会とする覚書を承認してほしい。2、モデル地域において解剖に立ち会う医師と評価鑑定する医師の名簿リストを各モデル地域ごと各5名計10名程度4月末までに提出してほしいと依頼があった。

阪埜幹事より、医療関連死モデル事業の意見交換会に出席し、日本内科学会が事業に必要な経費の受け皿となることを承認するよう話し合いがあったと説明。その後内科学会より候補医師を提出するむねの依頼が4月中にあるだろうと説明された。

以上について承認された。

○②厚生労働省医薬食品局安全対策課より、昨年4月に本会に作成依頼のあった陣痛促進剤のガイドラインについて、現状の検討(案)を早急に提供するよう要請があった。

本会周産期委員会での陣痛促進剤検討(案)は[資料：庶務10]のとおりである。第8回常務理事会での審議の結果、検討(案)はもう少し吟味する必要があるとのことで提出せず、事務局より本件の現状を厚労省の担当者に説明することとした。事務局より同担当者に説明の上了解を得たが、ガイドライン作成依頼後1年を経過するので、ガイドラインの最終案を早急に作成するよう同担当者から要請された。  
[資料：庶務10]

そのような方向で作業を進めることで承認された。

③厚生労働省医政局医事課より、「医師の需給に関する第3回検討会を4月6日に開催する予定であるが、本会より参考人として1名が出席の上、意見を15分程度陳述して欲しい」との依頼があった。厚労省に確認した結果、各学会より1名のみ参加とのことであり、本会から藤井会長が出席する旨厚労省に回答した。  
[資料：庶務11]

## (2) 文部科学省

①文科省研究振興局学術研究助成課より、「個人情報保護に関する法律」に関する資料を受領した(2月14日)。本会は個人情報取扱事業者に該当するため、[守らなければならない義務]に対応するルール作りを今後検討したい。[資料:庶務12]

## 〔Ⅲ. 関連団体〕

### (1) 日本妊娠中毒症学会

日本妊娠中毒症学会より新名称を『日本妊娠高血圧学会』に変更する旨の通知書を受領した(2月18日)。

### (2) 日本癌治療学会

日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員会より、平成16年10月27日に開催された抗がん剤適正使用ガイドラインワーキンググループ・がん診療ガイドライン委員会全体会議議事録を受領した(2月14日)。[資料:庶務13]

### (3) 日本循環器学会

関連学会と合同で作成する循環器病の診断・治療に関するガイドラインの著作権および著作権者を日本循環器学会に一本化すること、また、著作権の販売益について学会誌にガイドラインを掲載した場合には、その出版部数に応じて当該学会に配布すること、以上について同意するか否か意見を求める書信を受領した(3月26日)。[資料:庶務18]

本会は藤原班および中澤班に参画し、今秋にもガイドライン発刊予定とのこと。

**落合理事**より、禁煙指導のガイドライン、心疾患患者の妊娠、出産の適応、管理に関するガイドライン作成に参画する委員として木下勝之順天堂教授にお願いしたい。内容について不明な点も多いので確認してから依頼する予定であると説明された。

## 〔Ⅳ. その他〕

### (1) 後援依頼

①名古屋市立大学鈴木先生並びに慶應義塾大学吉村先生より第13回国際胎児診断・治療学会(5月29日-31日、京都)での後援依頼があった。[資料:庶務14]

財政負担がないことを条件に後援を応諾いたしたい。

②第25回医療情報学連合大会事務局より大会(11月24日-26日、横浜)共催または協賛の依頼があった。

財政負担がなく、過去協賛の実績があることから今回も協賛を応諾いたしたい。

③NPO法人東京がん化学療法研究会より第6回臨床腫瘍夏季セミナーでの後援依頼があった。

財政負担がないことを条件に後援を応諾いたしたい。

(2) アボットジャパン(株)より、βhCG測定キットの取扱いについて患者の安全の確保との観点から絨毛性疾患や胚細胞腫瘍などの腫瘍性疾患の診断をβhCG値単独で行わないよう、会員に周知して欲しい旨の書信を受領した(2月28日)。[資料:庶務15]

(3) 日本臓器製薬(株)より、メサルモン-F錠の供給停止について会社側の説明に関する書信を受領した(3月16日)。[資料:庶務16]

本会、医会、日本更年期学会から共同声明として、供給継続を依頼したが、平成18年度末までの供給は可能だがその後の継続は困難ということだった。

**麻生理事**:係りの方来て説明してもらいました。これ以上は主張しても困難なので仕

方がないと思われる。

(4) NPO 法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会より『読影試験の評価基準及び認定更新制の見直しについてのお知らせ』に関し機関誌への掲載依頼を受領した(3月18日)。評価基準が厳しすぎるという指摘が日本乳がん学会等から寄せられたため検討すると説明された。[資料：庶務17]

## 2) 会 計 (岡村州博理事)

(1) 文科省研究振興局学術研究助成課より、「事業報告書及び収支決算書」並びに「事業計画書及び収支予算書」の作成についての通知を受領した(2月14日)。

[資料：会計1]

## 3) 学 術 (和氣徳夫理事)

(1) 第27回日本医学会総会学術プログラムに関するアンケートを会長、副会長及び各理事宛に発送した(2月24日)。3月11日付で第27回日本医学会総会事務局宛にアンケートの回答を行った。[資料：学術1]

(2) 第58回学術講演会シンポジウム座長の委嘱

第4回理事会の決定に基づき、第58回学術講演会シンポジウム座長「妊娠と栄養・代謝－妊娠中の適切な栄養・管理をめざして－」：佐川典正教授(三重大学)、「PCOSの病態生理と臨床」：苛原稔教授(徳島大学)、「子宮頸部初期病変の管理と治療－標準化をめざして－」：植木實教授(大阪医科大学)、「安全性の向上をめざした婦人科良性疾患に対する内視鏡下手術の工夫」：星合昊教授(近畿大学)を委嘱し、同時にco-chairmanの推薦を依頼した。[資料：学術2]

(3) 第5回一般演題応募処理システム検討委員会の開催

4月1日に第5回委員会を開催し、第57回学術講演会一般演題応募処理の総括を行い、第58回学術講演会一般演題応募処理の担当校間の引継ぎ等を予定している。

和氣理事より、一般演題の採択システムの簡素化を田中会長に提言したい。現在、1300演題あり3人の査読者により2-3回行っている。これをやめると倫理的な問題点を見落とす危険がある。それを予防しながら担当団体の労務を軽減するためなんらかの方策を採らないといけない。

藤井会長より一般演題応募処理システム簡素化を田中次期会長に依頼した。

(4) 生殖・内分泌委員会より、「低用量経口避妊薬(OC)の医師向け情報提供資料」の改訂が、関連6学会の協議により終了し、改訂案が2月10日に開催された生殖・内分泌委員会においても了承された。[資料：学術3]

## 4) 編 集 (星 和彦理事)

(1) 会議開催

3月11日に編集会議を開催した。

(2) 「産婦人科研修の必修知識2004」について

星理事より、3月31日現在2,272部の販売実績になっており、在庫は約670部であり、スーパーローテートにこれをテキストとして薦めるよう会長名の書面を出しているの

さらに売れると思われる発言があった。

## 5) 渉外 (村田雄二理事)

[FIGO 関係]

(1) FIGO2006 の事務局から First Circular が送付された。広報活動のため本会関係の適当な学会があれば連絡して欲しいとのことである。

(2) FIGO 事務局から

\*The FIGO Distinguished Service Award

\*The FIGO Recognition Award to Non Ob/Gyns

の推薦依頼のメールを受領した。[資料：渉外 1]

(3) FIGO 事務局から『FIGO/ESRF Fellowship for Post-Doctoral Research』の募集の手紙を受領した。対象者は発展途上国の産婦人科医で 35 歳まで。締め切りは 5 月 31 日。

[資料：渉外 2]

[AOFOG 関係]

(1) スマトラ島沖大地震関連 Tsunami Fund 創設に関する協力の呼びかけに対応し、各地方部長宛に協力依頼の書信を発送した。その結果 3 月 22 日現在の義捐金額は 36 地方部会+1 大学より計 3,623,080 円となっている。2 月 21 日付で本会から同 Fund に 2 万ドルの送金を実行したが、各地方部会から予想以上の義捐金が集まり、その差額を Tsunami Fund に送金した (3 月 31 日)。

(2) AOCOG2005 事務局から発表者に対しての情報サイトの紹介があった。本会会員に連絡を希望するとのことである。

(3) AOCOG2005 Organizing Committee 委員長より、10 月 3 日開催の Korea-Japan Joint Conference のバンケットに招待するため、88 大学病院の主任教授の名前、所属、連絡先等の開示依頼があった。[資料：渉外 3]

第 8 回常務理事会において開示する方向性が承認されたため、各大学に情報提供につき依頼中である。

藤井会長より、日本からより多くの参加を呼びかけるためと説明があった。

[ACOG 関係]

特になし

[その他]

(1) The 6<sup>th</sup> Royan International Research Award & Congress (9 月 7-9 日、テヘラン)

事務局から Award および Abstract の締め切りの日時について E-mail を受領した。Award 対象論文の受付は 4 月 10 日、抄録締め切りは 7 月 1 日。

(<http://www.royaninstitute.org>)

○ (2) カナダ産科婦人科学会 (SOGC) より、藤井会長宛に SOGC Annual meeting (Quebec, June 16-21) への invitation 並びに honorary fellowship of the SOGC に推薦するとの通知があった。併せて新理事長が参加されるか照会があった。また、3 名の Junior members を junior member fellowship program に受け入れるとのことである。

[資料：渉外 4]

第 8 回常務理事会において、SOGC 並びに ACOG への派遣は新理事長、前年度の学術集会会長、渉外担当理事の 3 名を基本構成とし、教育担当理事（または幹事）を奨学基金制度による海外派遣の付き添いとして派遣することとした。

藤井会長より、招待に応じると発言があった。新理事長が決まり次第確認して報告すると説明された。若手医師の合宿の雰囲気ではアメリカでも歓迎する雰囲気があり、海外交流を定着させることができると感じている。そのため、付き添いが必要だろう。

落合理事より、アメリカの会長はすでに 10 名分の宿泊を確保していると追加発言があった。

以上について承認された。

## 6) 社 保（植木 實理事）

(1) 第 3 回社会保険学術委員会を 2 月 19 日に開催した。

(2) 厚生労働省並びに日本医師会宛『妊娠・分娩の給付のあり方に関する要望書』について[資料：社保 1]

(3) 厚生労働省より『医科診療報酬点数表及び関連通知等の項目総点検に関する御協力のお願い』を受領した（2 月 21 日）。 [資料：社保 2]

3 月 23 日に同協議会が開催された。

植木理事より、医科診療報酬点数表を総点検するべく委員を厚生労働省に呼んで点検を行った。

(4) 平成 18 年度社会保険診療報酬改正に関する要望項目について [資料：社保 3]

(5) 社会保険診療報酬検討委員会『平成 18 年 4 月診療報酬点数改定に関する産婦人科の要望』について [資料：社保 4]

植木理事より、医科診療報酬点数表を総点検するべく委員を厚生労働省に呼んで点検を行った。

3 月 23 日、麦谷課長、桑島、中谷、木内担当（厚生労働省）と協議会を行った。学会としては社保資料 3 の要望を提出した。趣旨としては分厚い保険点数の本を全科的に少なくしたい、不要の項目を削除したいということ。資料 2-2 の選択子宮帝王切開術、子宮破裂手術、流産手術、婦人科悪性腫瘍手術の増額など、かなり好意的に合意が得られた。削除項目も現在行われていないものを削除した。6 月までに話し合いが進められていく予定と説明された。

藤井会長より、麦谷課長は産婦人科の惨状を理解したうえで診療報酬点数を通して産婦人科医をサポートする考えを持っているのでぜひこの機会に積極的に話し合いを進めたいと発言された。

## 7) 専門医制度（武谷雄二理事）

(1) 地方委員会宛通知

武谷理事より、平成 17 年度審査に関わる各種様式、平成 17 年度の研修会出席証明シール、平成 17 年度更新該当者分の研修記録手帳、70 歳以上更新審査免除廃止に関する書面と該当者名簿、平成 17 年度の専門医認定審査・生涯研修実施報告書・卒後研修指導報告書・卒後研修医登録の留意事項、全国地方委員会委員長会議の開催、地方委員会運営補助費等に平成 17 年度事業計画を添え送付した。また、地方委員会改選についての書面も送付した（3 月 7 日）ことが報告された。



(2) 中間法人日本専門医認定制機構第4回総会の開催

武谷理事より、3月8日に第4回の総会が開催され、本会から武谷専門医制度委員会委員長が出席したことが報告された。また、認定制機構のあり方について諸学会間で議論が行われていることが報告された。

(3) 武谷理事より、機関誌掲載の専門医制度に関する「会告」を「会員へのお知らせ」とすることが提案され、了承された。

(4) 3月22日付読売新聞「日本専門医認定制機構による実態調査」に関する記事について、藤井会長より、今後、専門医に対する社会の眼が厳しくなってくるであろうとの見解が示された。[資料：専門医制度1]

(5) 武谷理事より、NPO法人日本レーザー医学会よりレーザー専門医制度の新設に関連し、産婦人科レーザー専門医の資格条件として経験症例及び症例数の基準を作成した旨の書信を受領した(3月22日)が報告された。現在のところ検討を開始していないが、今後、専門医中央委員会で議論することが提案され、了承された。

[資料：専門医制度2]

## 8) 倫理委員会 (田中憲一委員長)

(1) 田中委員長より、本会の見解に基づく諸登録(平成17年2月28日)が以下の通り報告された。

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：86施設
- ②体外受精・胚移植、およびGIFTの臨床実施に関する登録：643施設
- ③ヒト胚および卵の凍結保存と移植に関する登録：534施設
- ④パーコールを用いてのXY精子選別法臨床実施に関する登録：機関誌46巻8号(平成6年8月)において登録一時中止以来登録なし、通算17施設
- ⑤顕微授精の臨床実施に関する登録：370施設
- ⑥非配偶者間人工授精の臨床実施に関する登録：23施設

(2) 田中委員長より、会議開催について以下の通り報告された、第6回登録・調査小委員会を2月22日、第7回登録・調査小委員会を3月29日に開催した。

第1回慶應義塾大学及び名古屋市立大学からの着床前診断に関する審査小委員会(第2例目)をそれぞれ3月10日に開催した。

(3) 田中委員長より、「着床前診断に実施に関する細則」について、理事長制の導入に伴う文言の変更が[倫理1]のとおり提案され、了承された。

(4) 「着床前診断に関する審査小委員会のメンバー」について[資料：2]

田中委員長より、現在、慶應義塾大学、名古屋市立大学から申請された着床前診断についての申請に関してそれぞれの「着床前診断に関する審査小委員会」が審議を進めているが、新執行部が発足することに伴い、委員会の委員について協議していただきたいとの発言があり、協議の結果、現在の委員を特段に変更する必要はないとの見解が了承された。

## II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 学会のあり方検討委員会（藤井信吾委員長）

#### (1) 会議開催

藤井委員長より、3月11日に「産婦人科医育成奨学基金」による毎月10日までに40件（外研修派遣候補者選考委員会を開催したこと、同奨学基金には3男性21件、女性19件）の応募が寄せられたこと、選考の結果、ACOG 10名、SOGC 3名、AOF0G 27名の派遣を決定したこと、が報告された。また、団体旅行扱いをした場合、経費が削減できるので追加公募が可能になるかもしれないとの見解が示された。

### 2) 広報委員会（佐藤 章委員長）

#### (1) パスワード登録状況（2月末日現在）

佐藤委員長より、在籍会員15,689名のうち、パスワード登録済会員が6,931名であり、登録率は44.2%であること報告された。[資料：広報1]

(2) 佐藤委員長より、平成17年3月1日より本会ホームページをリニューアルしたこと、また、JOGR誌会員ページから購読可能になったことが報告された。

(3) 佐藤委員長より、公開講座についての平成16年度の報告ならびに平成17年度の予定の説明が行われた。[資料：広報2]

### 3) 第20回 AOCOG 組織委員会（武谷雄二委員長）

武谷委員長より、特に報告・協議事項がないことが報告された。

### 4) 生殖医療評価機構検討委員会（麻生武志委員長）

麻生委員長より、特に報告・協議事項がないことが報告された。

### 5) 第57回総会について

(1) 落合理事より、学術集会のプログラムとの関連で、総会開催時刻を3時からとする旨の提案があり、了承された。

(2) 落合理事より、総会の議事進行について概略の説明があり、協議の結果、了承した。

(3) 藤井会長より「特定の代議員からの質問に関して、毎年同様な質問を繰り返していることが指摘された。松岡副議長より、この件に関しては過去の運営委員会においても議論が行われていること、今後、質問については運営委員会において取捨選択することもあり得る」との見解が示された。

以上